大学・高専機能強化支援事業（支援１：学部再編等による特定成長分野への転換等に係る支援）
実施状況報告書

選定年度	令和7年度	学校コード	F146310111662	設置等組織名	デジタル総合学部（デジタル総合学科）
大学名	志學館大学	設置区分	私立		
学校種	大学	都道府県	鹿児島	事業計画名	志學館大学デジタル総合学部（仮称） 新設計画

１.年度別の計画及び取組状況

年度別の事業計画と取組状況、自己評価を記載してください。
当初計画から変更又は追加した取組は赤字で記載し、計画変更の承認を受けた計画については、末尾に承認日を赤字で記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある等、自己評価が下位2つの場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

事業期間	事業計画	取組状況	自己評価、課題（理由）とその対応
令和7年度	1-①令和7年7月 「新学部設置準備室」設置 1-②令和7年7月 当該業務に専従する職員の配置 1-③令和7年7月～12月 学部長予定者の確定 1-④令和7年7月～令和8年3月 同系統学部の運営状況調査や連携企業開拓のための訪問調査 1-⑤令和7年7月～令和8年3月 学生確保に関する調査の実施 1-⑥令和7年10月～令和8年9月 基幹教員の選定・確保 1-⑦令和7年10月～令和8年9月 新学部のカリキュラムの編成 1-⑧令和8年1月～令和9年3月 新学部の設置構想についての広報活動（R8.3.26承認）	1-①令和7年7月 「新学部設置準備室」設置 1-②令和7年7月 当該業務に専従する職員の配置 1-③令和7年7月～12月 学部長予定者の確定 1-④令和7年7月～令和8年3月 同系統学部の運営状況調査や連携企業開拓のための訪問調査 1-⑤令和7年7月～令和8年3月 学生確保に関する調査の実施 1-⑥令和7年10月～令和8年9月 基幹教員の選定・確保 1-⑦令和7年10月～令和8年9月 新学部のカリキュラムの編成 1-⑧令和8年1月～令和9年3月 新学部の設置構想についての広報活動 【改組内容】 令和7年 新設する学科の名称を「デジタル総合学科」から「データサイエンス学科」に変更して検討中（学部の名称の変更検討なし）。 令和7年 デジタル総合学部データサイエンス学科について、入学定員を40人から50人に変更して検討中。	令和7年度自己評価：【３】計画を十分に実施している。
令和8年度	1-⑥令和7年10月～令和8年9月 基幹教員の選定・確保 1-⑦令和7年10月～令和8年9月 新学部のカリキュラムの編成 1-⑧令和8年1月～令和9年3月 新学部の設置構想についての広報活動（R8.3.26承認） 1-⑨令和8年4月～令和9年2月 設置認可申請書作成 1-⑩令和8年10月 設置認可申請書の事前相談 1後-①令和9年1月～3月 新研究棟の設計着手 1後-②令和9年1月～3月 新研究棟に設置する教育研究備品・什器等の選定着手 1後-③令和9年1月～5月 新学部の学生募集用広報媒体の作成 2前-①令和9年1月～5月 新学部の入試制度の策定着手		令和8年度自己評価：リストから選択してください。
令和9年度	1後-③令和9年1月～5月 新学部の学生募集用広報媒体の作成 2前-①令和9年1月～5月 新学部の入試制度の策定着手 1後-④令和9年4月～令和10年3月 新学部の学生募集活動の実施 2-②令和9年4月～令和10年3月 新研究棟の新築工事 1後-⑤令和9年9月～令和10年3月 新学部の入学試験の実施 2-③令和9年12月～令和10年3月 新研究棟に設置する教育研究備品・什器等の購入・搬入		令和9年度自己評価：リストから選択してください。
令和10年度	3-①令和10年4月～令和14年3月 実験助手として技術スタッフの配置 3-②令和10年4月～令和14年3月 新学部専任の事務職員の配置 3-③令和10年4月～令和14年3月 教育研究備品の段階的整備と研究活動支援の推進による教育環境の充実化 3-④令和10年4月～令和14年3月 入学者確保のための志願状況分析と学習効果の検証の継続 3-⑤令和10年4月～令和14年3月 設置計画履行状況調査の報告		令和10年度自己評価：リストから選択してください。
令和11年度	3-①令和10年4月～令和14年3月 実験助手として技術スタッフの配置 3-②令和10年4月～令和14年3月 新学部専任の事務職員の配置 3-③令和10年4月～令和14年3月 教育研究備品の段階的整備と研究活動支援の推進による教育環境の充実化 3-④令和10年4月～令和14年3月 入学者確保のための志願状況分析と学習効果の検証の継続 3-⑤令和10年4月～令和14年3月 設置計画履行状況調査の報告		令和11年度自己評価：リストから選択してください。
令和12年度	3-①令和10年4月～令和14年3月 実験助手として技術スタッフの配置 3-②令和10年4月～令和14年3月 新学部専任の事務職員の配置 3-③令和10年4月～令和14年3月 教育研究備品の段階的整備と研究活動支援の推進による教育環境の充実化 3-④令和10年4月～令和14年3月 入学者確保のための志願状況分析と学習効果の検証の継続 3-⑤令和10年4月～令和14年3月 設置計画履行状況調査の報告		令和12年度自己評価：リストから選択してください。
令和13年度	3-①令和10年4月～令和14年3月 実験助手として技術スタッフの配置 3-②令和10年4月～令和14年3月 新学部専任の事務職員の配置 3-③令和10年4月～令和14年3月 教育研究備品の段階的整備と研究活動支援の推進による教育環境の充実化 3-④令和10年4月～令和14年3月 入学者確保のための志願状況分析と学習効果の検証の継続 3-⑤令和10年4月～令和14年3月 設置計画履行状況調査の報告		令和13年度自己評価：リストから選択してください。
令和14年度			令和14年度自己評価：リストから選択してください。
令和15年度			令和15年度自己評価：リストから選択してください。
令和16年度			令和16年度自己評価：リストから選択してください。
認可申請 又は届出	令和10年4月 デジタル総合学部 開設		
定員減又は 学部等の廃止			

フォローアップ対象年度	令和7年度	大学名	志學館大学

２.申請資格の確認

ⅰ） 学生募集停止中の大学
ⅱ） 学校教育法第109条の規定に基づき文部科学大臣の認証を受けた者による直近の評価の結果、「不適合」の判定を受けている大学
ⅲ） 「私立大学等経常費補助金」において、定員の充足状況に係る基準以外の事由により、前年度に不交付又は減額の措置を受けた大学
ⅳ） 設置計画履行状況等調査において、「指摘事項（法令違反）」が付されている大学
ⅴ） 大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準（平成15年文部科学省告示第45号）第２条第１号又は第２号のいずれかに該当する者が設置する大学

上記項目の申請資格の状況について、プルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目に該当していない、右の○の項目に該当している）

申請資格の状況	ⅰ）	ⅱ）	ⅲ）	ⅳ）	ⅴ）
すべての項目に該当していない					

３.申請要件の取組状況

① 高等教育の修学支援新制度において、大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第８号）に基づき、財務状況や収容定員充足率が適正であることを含めた要件を満たすことの確認を受けた大学であること。なお、新設予定の大学で、応募時点において、高等教育の修学支援新制度における要件確認の対象に該当しないものは、本要件は適用されない。□

② 十分な学生確保の見通しを備えた計画となっていること。

③ 産業界を含む社会のニーズ等を踏まえ、学修目標の具体化、体系的な教育カリキュラムの編成及び大学での学修に必要な資質・能力等を評価する入学者選抜が適切に実施され、そのための体制を構築する計画となっていること。（その際、国際的な質保証の枠組みを活用するなど出口における質保証にも十分留意することが重要。

④ 特定成長分野の人材を育成するための戦略、適切な管理・教育体制や教育研究環境の整備を図る計画となっていること。

⑤ 計画の対象となる学部等において、実務経験のある教員等による授業科目を配置する計画となっていること。

⑥ 特定成長分野に係る学部の設置等（学部若しくは学科の設置又は収容定員の増加）による組織の変更を伴う学部再編等の計画であること。

⑦-1 社会において具体的な人材ニーズが現に存在する、又は、その十分な見通しのある分野に係る学部等の設置等に取り組む計画であること。

⑦-2 学部又は学科の設置を行う場合、地域における特定成長分野の人材を必要としている複数の企業等と設置構想に関する事前協議を行う計画であること。

⑧ 入学定員が20名以上増加する計画であること。

⑨ 事業計画の選定があった日から４年を経過する日を含む年度の末日までに、計画の対象となる学部等の設置等を行うことを目指す計画であること。（本事業の申請時に既に設置認可申請又は届出を行っている場合を除く。）

⑩ 大学の総収容定員充足率（在籍学生数の収容定員に対する割合）について、計画の対象となる学部等の設置等に係る設置認可申請又は届出までに80%を満たす計画であること。

⑪ フェーズ３の助成期間終了時までに、大学全体の外部資金獲得額を申請時点の平均（過去５年間の中央値３年分の平均）に本事業による支援額の2.5%を上乗せした水準以上とする計画であること。

⑫ 計画の対象となる学部又は学科において、自大学以外の機関との連携を通じた教育体制の整備と教育の実施及び多様な入学者の確保に向けた取組を行う計画であること。

⑬ 選定された大学は、公募要領に定める申請要件を満たす質の高い教育等に向けた計画の具体化に努めるとともに、その進捗報告を行うこと。また、独立行政法人大学改革支援・学位授与機構法第十六条の三に規定する助成業務の実施に関する方針（令和５年４月13日文部科学大臣認可）六（２）②に基づき機構が実施する会議に参加すること。

⑭ 文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。

上記項目の①～⑬の申請要件について、　令和7年度　の取組の状況についてプルダウンで選択してください。（プルダウンの選択肢：すべての項目が要件を満たしている、右の○の項目の要件を満たしていない）

申請要件の状況	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦-1	⑦-2	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
すべての項目が要件を満たしている														

①～⑬の要件を満たしていない又は対象ではない項目がある場合、左欄に該当する申請要件を選択し、右欄に課題（理由）とその対応について記載してください。

項目	課題（理由）

⑭については、現在の状況をプルダウンより選択してください。

申請要件⑭について	現在の状況
⑭文部科学大臣から国際卓越研究大学として認定を受け、支援を受けている大学でないこと。	認定を受けておらず申請する意向もない

４.審査要項における確認項目の計画及び取組状況

令和7年度　の取組実績を記載し、申請時に選択した項目にチェックを入れた計画を記載してください。取組実績は会社名や大学名、定量的なデータ等を示し具体的に記載してください。検討中であっても状況を記載してください。
計画の進捗の遅れや実施困難な事項がある場合には、課題（理由）とその対応を記載してください。計画通りに実施できており、その他課題がない場合に限り記載は不要です。

【A：連携を通した教育体制の整備と実施】（連携開設科目等に限らない）

■ チェック　a.企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施
■ チェック　b.関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施
□ チェック　c.関連分野に強みを持つ海外大学との連携（連携した科目や交換留学プログラムの整備・実施等）

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
霧島市教育委員会、鹿児島工業高等専門学校とは、地元在住者を対象とした「隼人学」を毎年継続開催しており、その中で「ICT」や「DX」に関する講座を実施している。伊佐市教育委員会、伊佐市医療法人慈和会大口病院とは、令和6年より、「就学前診断とその後の医療・福祉・教育の支援の在り方」に関する調査研究を実施している。また、KISA、鹿児島市、株式会社鹿児島銀行とは、令和7年度より、寄附連携講座「文系学生のためのDX入門」を開講する。 これらの連携実績を基盤に、新学部においても、実務家による講義、実データに基づく演習、PBL型授業を展開する予定である。併せて、上記の連携機関とは実践的インターンシップの実施も予定している。 本学を含む鹿児島県内の高等教育機関12校を中心に組織する大学地域コンソーシアム鹿児島における共通開設コーディネート科目「鹿児島データサイエンス実践」の共催や、産学官金言で組織する「人材・産業」育成プラットフォーム（ネクストかごしま）における地方創生事業活動のこれまでの取組実績を活かして、加盟する各機関と広く連携し、新学部での学修を推進する。	霧島市教育委員会、鹿児島工業高等専門学校と開催する「隼人学」を今年度も開催し、その中で「ICT」や「DX」に関する講座を（全8回中）3回実施した。伊佐市教育委員会、伊佐市医療法人慈和会大口病院と行っている調査研究「就学前診断とその後の医療・福祉・教育の支援の在り方」は、今年度も継続して実施した。また、KISA、鹿児島市、株式会社鹿児島銀行と、寄附連携講座「文系学生のためのDX入門」を今年度より開講した。 本学も参加する、大学地域コンソーシアム鹿児島や、産学官金言で組織する「人材・産業」育成プラットフォーム（ネクストかごしま）における実績等を活かし、今年度も令和10年度の学部開設にむけて各種企業や地域の他大学等との連携強化の取り組みを行った。 企業や自治体と連携した科目（PBL等）の整備・実施について、①株式会社ソフトバンク様と連携にむけた協議を3回、先方の東京本社への訪問を1回、先方が既に行う他大学との連携活動の視察を1回行った。②「モビリティのみらい@鹿児島」の会議に参加し、新学部の概要説明とPBLの協力依頼を11社に向けて行った。③次年度のPBL協力依頼にむけて訪問先企業・自治体等66件をピックアップした。 関連分野に強みを持つ地域の他大学と連携した科目の整備・実施について、①鹿児島工業高等専門学校様と本学において「連携協力に関する協定」を締結した。今後、新学部に関する連携事項の具体化に向けて協議を継続する予定である。②鹿児島大学理工学研究科と、今後の各種連携に向けて協議を1回行った。	

【B：多様な入学者の確保に向けた取組】

■ チェック　a.入学者選抜における科目の見直し
■ チェック　b.女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組
■ チェック　c.地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）
■ チェック　d.社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）
□ チェック　e.留学生の受入れ強化に向けた取組

申請時の計画	取組実績、進捗状況	課題（理由）とその対応
本学で既に行っている確かな学力と多様な資質をもった受験生を受け入れる多面的評価入試を継続しつつ、新学部に適合する入試科目を検討する。 本学の学生比率は男女ほぼ同率であるが、理系学部の女子学生の確保について、高大連携協力校（令和6年現在18校）を中心に、当該分野の魅力を伝える機会を設け、潜在的ニーズの掘り起こしを図る。 小中高生に向けて、出張授業、大学見学会、ガイダンス、探究活動発表会等を継続して実施し、新学部における授業の具体的なイメージを提示することで、進学への動機づけを図る。 本学の社会人学生受入の体制と実績を活かし、新学部におけるDX人材の育成を見据えたリカレント教育体制を整える予定である。	入学者選抜における科目の見直しについて、他大学において数学を入試科目としてどのように取り扱っているかを、都市部で行われる諮会議体において関係者にヒアリング等を行い情報収集を行った。 女子学生の確保（志願者数増）に向けた取組について、今年度の高大連携会議（参加校10校）において新学部に関する概要説明を行い、その中で理系学部の女子学生の確保についても高等学校側と意見交換を行った。 地域の初等中等教育段階の学校との連携（出張授業の実施等）について、中学校からの大学見学を1件受け入れ、そこで新学部に関する説明を行った。 社会人学生の受入れ強化に向けた取組（リカレント・リスキリングへの対応）について、本学の社会人学生の受入実績について各年度の入学生数や志望動機の分析を行った。	

大学名	志學館大学

本事業対象となる学部等の個数	1

１.本事業対象となる学部等の状況

＜内訳＞

(1)

改組内容	学部の新設
学部学科名	デジタル総合学部デジタル総合学科（工学関係）

		年度		R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
		改組状況		選定																		
大区分	小区分	項目	単位																			
	事業計画に定める定員	入学定員	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	志學館大学

２.理･工･農学分野の学位を授与できる学部等（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学･在籍状況	春季入学	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	その他の学期	入学定員	人	-	-																	
		入学者数	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	-	-																	
		入学者数(B)	人	-	-																	
		女子学生数	人	-	-																	
		社会人学生数	人	-	-																	
		留学生数	人	-	-																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	-	-																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	-	-																	
		編入学定員	人	-	-																	
		在籍者数(D)	人	-	-																	
		編入学者数	人	-	-																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	-	-																	
卒業後の状況	卒業者数	卒業者数	人	-	-																	
教員の状況	実務経験のある教員の参画	教員数	人	-	-																	
		授業科目の単位数	単位	-	-																	

大学名	志學館大学

３.大学（学士課程）の状況

大区分	小区分	項目	単位	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度	R20年度	R21年度	R22年度	R23年度	R24年度	R25年度
学生の入学・在籍状況	春季入学	入学定員	人	345	345																	
		入学者数	人	421	443																	
	その他の学期	入学定員	人	0	0																	
		入学者数	人	0	0																	
	入学者合計	入学定員(A)	人	345	345																	
		入学者数(B)	人	421	443																	
		入学定員充足率（B/A）	倍	1.22	1.28																	
	収容定員等	収容定員(C)	人	1,400	1,400																	
		編入学定員	人	10	10																	
		在籍者数(D)	人	1,420	1,519																	
		編入学者数	人	5	4																	
		収容定員充足率（D/C）	倍	1.01	1.09																	

４.外部資金の状況（全学）

項目	単位	R1年度 申請-5年	R2年度 申請-4年	R3年度 申請-3年	R4年度 申請-2年	R5年度 申請-1年	R6年度 申請	R7年度 選定	R8年度	R9年度	R10年度	R11年度	R12年度	R13年度	R14年度	R15年度	R16年度	R17年度	R18年度	R19年度
外部資金獲得額	千円	24,630	10,994	9,715	5,996	9,360	8,398	11,454												

項目	単位	
申請時点の外部資金獲得額平均 （過去5年間における各年度の外部資金獲得額のうち最大額及び最小額を除いた残り3年分の平均）(E)	千円	10,023
本事業による助成金の額(F)	千円	370,000
フェーズ３の助成期間終了時までに達成する額(E+F×2.5%)	千円	19,273

特記事項